

科目名	声楽Ⅰ（日本伝統歌唱法基礎を含む）			担当教員	荒木 善子、杉山 加保里
単位	1単位	講義区分	実技	ナンバリング	ED1MVC101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	発声の基本的技術の理解と習得。日本の伝統音楽の歌唱法と西洋の歌唱法の違いを知ることができる。ベルカントな声で歌うことができる。声楽に関連のある語句の意味を理解することができる。				
授業の概要	伝統的歌唱法、及び、西洋発声法について違いを知る。3～12回の西洋発声については、姿勢・呼吸の仕方・共鳴等にこだわり発声トレーニングする。母音・ハミング唱を行い、歌いながらイタリア語を付けて歌ってみる。アリエッタの形を取った教材を使い、それにより発音・発声の表現などベルカントの基本的表現法を習得する。4～8回は歌に関連ある語句を調べプレゼンテーションする。毎時、数人のグループに分かれ発声についてチェックし合う。【デジタル技術利用：該当なし】				

授業計画	
第1回	世界の様々な歌声/日本音楽伝統歌唱の仕方 民謡、謡、長唄等から邦楽における発声を理解、長唄「供奴」① （杉山）
第2回	日本音楽伝統歌唱の仕方 姿勢と発声 長唄「供奴」② レポート①(杉山)
第3回	ヴァッカイ：第1課 音階・三度音程（荒木）
第4回	ヴァッカイ：第2課 四度音程・五度音程 語句：ベルカント（荒木）
第5回	ヴァッカイ：第3課 六度音程 語句：声域・声種（荒木）
第6回	ヴァッカイ：第4課 七度音程・オクターブ 語句：声区・声帯（荒木）
第7回	ヴァッカイ：第5課 半音 語句：共鳴（荒木）
第8回	ヴァッカイ：第6課 シンコペーション 語句：横隔膜（荒木）
第9回	ヴァッカイ：第7課 速い音階の練習への導入（荒木）
第10回	ヴァッカイ：第8課 上からおよび下からの前打音・短前打音（荒木）
第11回	ヴァッカイ：第9課 装飾音への導入（荒木）
第12回	ヴァッカイの中から各人の発表曲を決定し歌唱する。クラス内で伴奏者を決定する。（荒木）
第13回	各人の発表曲を歌唱する。（伴奏付き）（荒木）
第14回	各人の発表曲を伴奏者と共に仕上げる。（荒木）
第15回	実技発表と講評（所感）、西洋及び伝統歌唱の発声法等にかかわるレポート②と発声ノート提出（荒木）

事前学修	0.5時間	発声トレーニングを行う。次回曲の読譜、イタリア語歌詞を読む。13～15回は伴奏者と音楽の一致をみて合わせる。
事後学修	0.5時間	授業時の発声トレーニングを確認する。
フィードバックの方法	毎時授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	30%	①伝統的歌唱法②西洋発声法③自己分析シート各10%根拠に基づき的確に述べるができる。
上記以外の試験・平常点評価	70%	毎時の課題曲を音程正しく発声を考えながら歌う技能及び最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ヴァッカイ声楽教本	N.ヴァッカイ	(株) 全音楽譜出版社	978-4-11-72506-1	なし
参考資料	なし			

科目名	声楽Ⅰ（日本伝統歌唱法基礎を含む）			担当教員	高木 彩也子、杉山 加保里
単位	1単位	講義区分	実技	ナンバリング	ED1MVC101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	発声の基本的技術の理解と習得。日本の伝統音楽の歌唱法と西洋の歌唱法の違いを知ることができる。ベルカントな声で歌うことができる。声楽に関連のある語句の意味を理解することができる。				
授業の概要	伝統的歌唱法、及び、西洋発声法について違いを知る。3～12回の西洋発声については、姿勢・呼吸の仕方・共鳴等にこだわり発声トレーニングする。母音・ハミング唱を行い、歌いながらきたらイタリア語を付けて歌ってみる。アリエッタの形を取った教材を使い、それにより発音・発声の表現などベルカントの基本的表現法を習得する。4～8回は歌に関連ある語句を調べプレゼンテーションする。毎時、数人のグループに分かれ発声についてチェックし合う。【デジタル技術利用：該当なし】				

授業計画	
第1回	世界の様々な歌声/日本音楽伝統歌唱の仕方 民謡、謡、長唄等から邦楽における発声を理解、長唄「供奴」① （杉山）
第2回	日本音楽伝統歌唱の仕方 姿勢と発声 長唄「供奴」② レポート① （杉山）
第3回	ヴァッカイ：第1課 音階・三度音程（高木）
第4回	ヴァッカイ：第2課 四度音程・五度音程 語句：ベルカント(高木)
第5回	ヴァッカイ：第3課 六度音程 語句：声域・声種(高木)
第6回	ヴァッカイ：第4課 七度音程・オクターブ 語句：声区・声帯(高木)
第7回	ヴァッカイ：第5課 半音 語句：共鳴(高木)
第8回	ヴァッカイ：第6課 シンコベーション 語句：横隔膜(高木)
第9回	ヴァッカイ：第7課 速い音階の練習への導入(高木)
第10回	ヴァッカイ：第8課 上からおよび下からの前打音・短前打音(高木)
第11回	ヴァッカイ：第9課 装飾音への導入(高木)
第12回	ヴァッカイの中から各人の発表曲を決定し歌唱する。クラス内で伴奏者を決定する。（高木）
第13回	各人の発表曲を歌唱する。（伴奏付き）（高木）
第14回	各人の発表曲を伴奏者と共に仕上げる。（高木）
第15回	実技発表と講評（所感）、西洋及び伝統歌唱の発声法等にかかわるレポート②と発声ノート提出(高木)

事前学修	0.5時間	発声トレーニングを行う。次回曲の読譜、イタリア語歌詞を読む。13～15回は伴奏者と音楽の一致をみて合わせる。
事後学修	0.5時間	授業時の発声トレーニングを確認する。
フィードバックの方法	毎時授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	30%	①伝統的歌唱法②西洋発声法③ポートフォリオ各10%根拠に基づきの確に述べることができる。
上記以外の試験・平常点評価	70%	毎時の課題曲を音程正しく発声を考えながら歌う技能及び最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ヴァッカイ声楽教本	N.ヴァッカイ	(株) 全音楽譜出版社	978-4-11-72506-1	なし
参考資料	なし			

科目名	声楽Ⅱ			担当教員	高木 彩也子	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1MVC402
期待される学修成果	教科教育 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	共鳴の整った声作りをする為の歌い方（技術）を学ぶ。到達目標：イタリア語の発音ができる。イタリア歌曲集（中高等学校教科書掲載曲を含む）の歌を音程正しく、プレス、フレーズを安定して歌うことができる。					
授業の概要	声作りに適したイタリア古典歌曲を教材とする。読譜、イタリア語の発音の仕方、歌詞と訳詞の朗読、古典歌曲に相応しい音楽的な歌唱の仕方（共鳴、呼吸、フレージング、アゴーギク、ドラマティックなど）を学ぶ。講義の後、グループでイタリア語読みのチェックや表現の為のディスカッションをして歌唱する。【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	中・高等学校歌唱教材①：「帰れソレントへ」のイタリア語歌詞読み、譜読み（第1～8回までグループレッスン）
第2回	中・高等学校歌唱教材②：「帰れソレントへ」の曲想を活かす歌唱表現
第3回	発音・発声・イタリア語の読みと歌詞付け：Caro mio ben
第4回	上記楽曲の歌唱表現
第5回	上記楽曲の仕上げ・発表（クラスで歌の留意点を交流し、歌の発表について所感を述べあう）
第6回	発音・発声・イタリア語の読みと歌詞付け：Nel cor piu non mi sento
第7回	上記楽曲の歌唱表現
第8回	上記楽曲の仕上げ・発表（クラスで歌の留意点を交流し、歌の発表について所感を述べあう）
第9回	第1～8回のまとめ 各人の独唱曲（3分以内）の選択と、全員でそれらのイタリア歌曲の歌詞を読み確認。
第10回	各人の課題曲の読譜、イタリア語を付けての歌唱。(第10～14回まで個人指導、他の人のレッスンにも参加)
第11回	各人の課題曲の相応しい歌唱表現をつかむ。
第12回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－1（伴奏者は各クラスで選ぶ）
第13回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－2
第14回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－3
第15回	各人の課題歌曲を発表し、全員がその発表に対しての所感を書く。レポート提出。

事前学修	0.5時間	課題曲の歌詞（イタリア語）の発音・意味を調べる。また読譜を十分に行い、どのように歌うか音楽的表現を考える。発表前には伴奏者と十分に合わせる。
事後学修	0.5時間	教授されたことを確認し練習を重ね、歌唱表現につなげる。発声トレーニングを怠らない。
フィードバックの方法	毎時授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について（発声・音楽面等）根拠に基づき的確に述べることを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	90%	イタリア語の発音、整った共鳴を留意した発声で歌う技能及び最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
イタリア歌曲集 1	畑中良輔	(株) 全音楽譜出版社	4117132210	なし
参考資料				

科目名	声楽Ⅱ			担当教員	荒木 善子	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1MVC402
期待される学修成果	教科教育 学校と社会					
アクティﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞ の要素	ｸﾞﾙｰﾌﾞﾜｰｸ					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	共鳴の整った声作りをする為の歌い方（技術）を学ぶ。到達目標：イタリア語の発音ができる。イタリア歌曲集（中高等学校教科書掲載曲を含む）の歌を音程正しく、プレス、フレーズを安定して歌うことができる。					
授業の概要	声作りに適したイタリア古典歌曲を教材とする。読譜、イタリア語の発音の仕方、歌詞と訳詞の朗読、古典歌曲に相応しい音楽的な歌唱の仕方（共鳴、呼吸、フレージング、アゴーギク、ドラマティックなど）を学ぶ。講義の後、ｸﾞﾙｰﾌﾟでイタリア語読みのチェックや表現の為のディスｶｯｼｮﾝをして歌唱する。【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	中・高等学校歌唱教材①：「帰れソレントへ」のイタリア語歌詞読み、譜読み（第1～8回までグループレッスン）
第2回	中・高等学校歌唱教材②：「帰れソレントへ」の曲想を活かす歌唱表現
第3回	発音・発声・イタリア語の読みと歌詞付け：Caro mio ben
第4回	上記楽曲の歌唱表現
第5回	上記楽曲の仕上げ・発表（クラスで歌の留意点を交流し、歌の発表について所感を述べあう）
第6回	発音・発声・イタリア語の読みと歌詞付け：Nel cor piu non mi sento
第7回	上記楽曲の歌唱表現
第8回	上記楽曲の仕上げ・発表（クラスで歌の留意点を交流し、歌の発表について所感を述べあう）
第9回	第1～8回のまとめ 各人の独唱曲（3分以内）の選択と、全員でそれらのイタリア歌曲の歌詞を読み確認。
第10回	各人の課題曲の読譜、イタリア語を付けての歌唱。(第10～14回まで個人指導、他の人のレッスンにも参加)
第11回	各人の課題曲の相応しい歌唱表現をつかむ。
第12回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－1（伴奏者は各クラスで選ぶ）
第13回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－2
第14回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－3
第15回	各人の課題歌曲を発表し、全員がその発表に対しての所感を書く。レポート提出。

事前学修	0.5時間	課題曲の歌詞（イタリア語）の発音・意味を調べる。また読譜を十分に行い、どのように歌うか音楽的表現を考える。発表前には伴奏者と十分に合わせる。
事後学修	0.5時間	教授されたことを確認し練習を重ね、歌唱表現につなげる。発声トレーニングを怠らない。
フィードバックの方法	毎時授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について（発声・音楽面等）根拠に基づきの確に述べるができるかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	90%	イタリア語の発音、整った共鳴を留意した発声で歌う技能及び最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
イタリア歌曲集 1	畑中良輔	(株) 全音楽譜出版社	4117132210	なし
参考資料				

科目名	声楽Ⅱ			担当教員	長川 慶、長川 慶	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED1MVC402
期待される学修成果	教科教育 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	共鳴の整った声作りをする為の歌い方（技術）を学ぶ。到達目標：イタリア語の発音ができる。イタリア歌曲集（中高等学校教科書掲載曲を含む）の歌を音程正しく、プレス、フレーズを安定して歌うことができる。					
授業の概要	声作りに適したイタリア古典歌曲を教材とする。読譜、イタリア語の発音の仕方、歌詞と訳詞の朗読、古典歌曲に相応しい音楽的な歌唱の仕方（共鳴、呼吸、フレージング、アゴーギク、ドラマティックなど）を学ぶ。講義の後、グループでイタリア語読みのチェックや表現の為のディスカッションをして歌唱する。【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	中・高等学校歌唱教材①：「帰れソレントへ」のイタリア語歌詞読み、譜読み（第1～8回までグループレッスン）
第2回	中・高等学校歌唱教材②：「帰れソレントへ」の曲想を活かす歌唱表現
第3回	発音・発声・イタリア語の読みと歌詞付け：Caro mio ben
第4回	上記楽曲の歌唱表現
第5回	上記楽曲の仕上げ・発表（クラスで歌の留意点を交流し、歌の発表について所感を述べあう）
第6回	発音・発声・イタリア語の読みと歌詞付け：Nel cor piu non mi sento
第7回	上記楽曲の歌唱表現
第8回	上記楽曲の仕上げ・発表（クラスで歌の留意点を交流し、歌の発表について所感を述べあう）
第9回	第1～8回のまとめ 各人の独唱曲（3分以内）の選択と、全員でそれらのイタリア歌曲の歌詞を読み確認。
第10回	各人の課題曲の読譜、イタリア語を付けての歌唱。(第10～14回まで個人指導、他の人のレッスンにも参加)
第11回	各人の課題曲の相応しい歌唱表現をつかむ。
第12回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－1（伴奏者は各クラスで選ぶ）
第13回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－2
第14回	伴奏者と共に楽曲の仕上げ1－3
第15回	各人の課題歌曲を発表し、全員がその発表に対しての所感を書く。レポート提出。

事前学修	0.5時間	課題曲の歌詞（イタリア語）の発音・意味を調べる。また読譜を十分に行い、どのように歌うか音楽的表現を考える。発表前には伴奏者と十分に合わせる。
事後学修	0.5時間	教授されたことを確認し練習を重ね、歌唱表現につなげる。発声トレーニングを怠らない。
フィードバックの方法	毎時授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について（発声・音楽面等）根拠に基づきの確に述べるができるかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	90%	イタリア語の発音、整った共鳴を留意した発声で歌う技能及び最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する。
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
イタリア歌曲集 1	畑中良輔	(株) 全音楽譜出版社	4117132210	なし
参考資料				

科目名	声楽Ⅲ			担当教員	荒木 善子	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2MVC403
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	日本歌曲の味わい方、歌唱表現の仕方をつかむ。達成目標：作詞者・作曲者の生い立ちや時代的背景、作品への思いを理解することができる。それらを踏まえ、詩を深く理解し技術と合わせもって歌唱表現に繋げることができる。					
授業の概要	日本歌曲に取り組む。声楽技術向上のため、毎時の発声トレーニングを繰り返す。中学校の日本歌曲共通教材（第1～7回）については、詩人や作曲者の時代背景や思いを調べ、作品の深意をつかむ。歌唱においては、楽譜にある曲想を理解し、日本歌曲に相応しい表現豊かな歌唱をする。（第2～7回の曲順は参考であり、指導教員の指示を受けた順に取り組むこと。）【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	日本歌曲の誕生と流れについて 「花」（武島羽衣作詞 滝 廉太郎曲）作品理解と歌唱
第2回	「荒城の月」（土井晩翠詞 滝 廉太郎曲）作品理解と歌唱（2～7回の歌について、詩人、作曲家や作品の背景にあるもの等について調べる。）
第3回	「赤とんぼ」（三木露風詞 山田耕筰曲）作品理解と歌唱
第4回	「浜辺の歌」（林 古溪詞 成田 為三曲）作品理解と歌唱
第5回	「早春賦」（古丸一昌詞 中田 章曲）作品理解と歌唱
第6回	「夏の思い出」（江間章子詞 中田喜直曲）作品理解と歌唱
第7回	「花の街」（江間章子詞 團 伊玖磨曲）作品理解と歌唱
第8回	第2～7回までの曲から各人1曲選択し歌唱する。人の歌唱を鑑賞し評価しあう。
第9回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）①
第10回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）②
第11回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）③
第12回	各人課題曲の歌唱①（伴奏者はクラス内で決定） 他の日本歌曲集からの選曲も可。
第13回	各人課題曲の歌唱②（伴奏をつけて）
第14回	各人課題曲の歌唱③（伴奏をつけて）
第15回	各人課題曲の発表と講評。日本歌曲についてのレポート提出。

事前学修	0.5時間	課題曲の読譜と歌唱。作詞者・作曲者などの作品背景を調べる。伴奏者と適宜合わせる。
事後学修	0.5時間	教授されたことを確認し練習を重ね、歌唱表現につなげる。伴奏者と音楽的表現の一致を見て十分な合わせをする。
フィードバックの方法	授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について(発声・音楽面等)根拠に基づきの確に述べることを評価する
上記以外の試験・平常点評価	90%	日本語の発音、整った共鳴を留意した発声で歌う技能及び最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本歌曲集 1	全音楽譜出版社出版部	(株)全音楽譜出版社	9784117280210	なし
参考資料	中学生の音楽 1、2・3上、2・3下(教育芸術社)			

科目名	声楽Ⅲ			担当教員	長川 慶、長川 慶	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2MVC403
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	日本歌曲の味わい方、歌唱表現の仕方をつかむ。達成目標：作詞者・作曲者の生い立ちや時代的背景、作品への思いを理解することができる。それらを踏まえ、詩を深く理解し技術と合わせもって歌唱表現に繋げることができる。					
授業の概要	日本歌曲に取り組む。声楽技術向上のため、毎時の発声トレーニングを繰り返す。中学校の日本歌曲共通教材（第1～7回）については、詩人や作曲者の時代背景や思いを調べ、作品の深意をつかむ。歌唱においては、楽譜にある曲想を理解し、日本歌曲に相応しい表現豊かな歌唱をする。（第2～7回の曲順は参考であり、指導教員の指示を受けた順に取り組むこと。）【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	日本歌曲の誕生と流れについて 「花」（武島羽衣作詞 滝 廉太郎曲）作品理解と歌唱
第2回	「荒城の月」（土井晩翠詞 滝 廉太郎曲）作品理解と歌唱（2～7回の歌について、詩人、作曲者や作品の背景にあるもの等について調べる。）
第3回	「赤とんぼ」（三木露風詞 山田耕筰曲）作品理解と歌唱
第4回	「浜辺の歌」（林 古溪詞 成田 為三曲）作品理解と歌唱
第5回	「早春賦」（古丸一昌詞 中田 章曲）作品理解と歌唱
第6回	「夏の思い出」（江間章子詞 中田喜直曲）作品理解と歌唱
第7回	「花の街」（江間章子詞 團 伊玖磨曲）作品理解と歌唱
第8回	第2～7回までの曲から各人1曲選択し歌唱する。人の歌唱を鑑賞し評価しあう。
第9回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）①
第10回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）②
第11回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）③
第12回	各人課題曲の歌唱①（伴奏者はクラス内で決定） 他の日本歌曲集からの選曲も可。
第13回	各人課題曲の歌唱②（伴奏をつけて）
第14回	各人課題曲の歌唱③（伴奏をつけて）
第15回	各人課題曲の発表と講評。日本歌曲についてのレポート提出。

事前学修	0.5時間	課題曲の読譜と歌唱。作詞者・作曲者などの作品背景を調べる。伴奏者と適宜合わせる。
事後学修	0.5時間	教授されたことを確認し練習を重ね、歌唱表現につなげる。伴奏者と音楽的表現の一致を見て十分な合わせをする。
フィードバックの方法	授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について(発声・音楽面等)根拠に基づきの確に述べることを評価する
上記以外の試験・平常点評価	90%	日本語の発音、整った共鳴を留意した発声で歌う技能及び最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本歌曲集 1	全音楽譜出版社出版部	(株)全音楽譜出版社	9784117280210	なし
参考資料	中学生の音楽 1、2・3上、2・3下(教育芸術社)			

科目名	声楽Ⅲ			担当教員	市原 真由実	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2MVC403
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	日本歌曲の味わい方、歌唱表現の仕方をつかむ。達成目標：作詞者・作曲者の生い立ちや時代的背景、作品への思いを理解することができる。それらを踏まえ、詩を深く理解し技術と合わせもって歌唱表現に繋げることができる。					
授業の概要	日本歌曲に取り組む。声楽技術向上のため、毎時の発声トレーニングを繰り返す。中学校の日本歌曲共通教材（第1～7回）については、詩人や作曲者の時代背景や思いを調べ、作品の深意をつかむ。歌唱においては、楽譜にある曲想を理解し、日本歌曲に相応しい表現豊かな歌唱をする。（第2～7回の曲順は参考であり、指導教員の指示を受けた順に取り組むこと。）【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	日本歌曲の誕生と流れについて 「花」（武島羽衣作詞 滝 廉太郎曲）作品理解と歌唱
第2回	「荒城の月」（土井晩翠詞 滝 廉太郎曲）作品理解と歌唱（2～7回の歌について、詩人、作曲家や作品の背景にあるもの等について調べる。）
第3回	「赤とんぼ」（三木露風詞 山田耕筰曲）作品理解と歌唱
第4回	「浜辺の歌」（林 古溪詞 成田 為三曲）作品理解と歌唱
第5回	「早春賦」（古丸一昌詞 中田 章曲）作品理解と歌唱
第6回	「夏の思い出」（江間章子詞 中田喜直曲）作品理解と歌唱
第7回	「花の街」（江間章子詞 團 伊玖磨曲）作品理解と歌唱
第8回	第2～7回までの曲から各人1曲選択し歌唱する。人の歌唱を鑑賞し評価しあう。
第9回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）①
第10回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）②
第11回	教材研究と歌唱（古典、近代曲より）③
第12回	各人課題曲の歌唱①（伴奏者はクラス内で決定） 他の日本歌曲集からの選曲も可。
第13回	各人課題曲の歌唱②（伴奏をつけて）
第14回	各人課題曲の歌唱③（伴奏をつけて）
第15回	各人課題曲の発表と講評。日本歌曲についてのレポート提出。

事前学修	0.5時間	課題曲の読譜と歌唱。作詞者・作曲者などの作品背景を調べる。伴奏者と適宜合わせる。
事後学修	0.5時間	教授されたことを確認し練習を重ね、歌唱表現につなげる。伴奏者と音楽的表現の一致を見て十分な合わせをする。
フィードバックの方法	授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について(発声・音楽面等)根拠に基づきの確に述べることを評価する
上記以外の試験・平常点評価	90%	日本語の発音、整った共鳴を留意した発声で歌う技能及び最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本歌曲集 1	全音楽譜出版社出版部	(株)全音楽譜出版社	9784117280210	なし
参考資料	中学生の音楽 1、2・3上、2・3下(教育芸術社)			

科目名	声楽Ⅳ			担当教員	荒木 善子	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2MVC504
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ロマン派・近代の作曲家によるイタリア歌曲を歌唱する。それぞれの作曲家の特徴を捉え、音楽的に歌うことができる。					
授業の概要	イタリア歌曲(ロマン派・近代)を歌唱する。ベルカント唱法を土台にし、作曲家の特徴を理解したうえで歌唱表現へとつなげる。(各人指示された歌に取り組むこと。)【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	トスティ 歌曲より指定された楽曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第2回	上記楽曲②音楽的表現の探求
第3回	上記楽曲③まとめ
第4回	上記楽曲④仕上げと発表
第5回	トスティ・ベッリーニ・ドナウディ 歌曲より指定された楽曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第6回	上記楽曲②音楽的表現の探求
第7回	上記楽曲③まとめ
第8回	上記楽曲④仕上げと発表
第9回	第1回～8回のまとめ
第10回	各人の課題曲を選択・決定
第11回	各人課題曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第12回	各人課題曲②音楽的表現の探求
第13回	各人課題曲③音楽的な仕上げ（伴奏者とペアで音楽の表現研究）
第14回	各人課題曲④伴奏者と共に発表に向け音楽的表現豊かに仕上げる（伴奏者とペアで音楽の表現研究）
第15回	各人課題曲の発表と講評（所感）、レポート提出

事前学修	0.5時間	イタリア語の発音を確認し、音程正しく歌っておくこと。歌詞の内容に適した音楽表現を工夫する。
事後学修	0.5時間	教授された歌唱法、曲想などを確認し繰り返し練習する。伴奏者と共に演奏を仕上げることで、作品理解を深める。
フィードバックの方法	授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について、根拠に基づき的確に述べる ことができるかを評価する
上記以外の試験・平常点評価	90%	作曲家ごとの特徴を理解し、ベルカント唱法で歌う 技能最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
トスティ歌曲集 1	畑中良輔・中巻寛子	(株)全音楽譜出版社	9784117135015	なし
参考資料	ドナウディ歌曲集(全音楽譜出版社)、イタリア近代歌曲集(全音楽譜出版社)、ベッリーニ歌曲集(Ricordi社)			

科目名	声楽Ⅳ			担当教員	高木 彩也子	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2MVC504
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ロマン派・近代の作曲家によるイタリア歌曲を歌唱する。それぞれの作曲家の特徴を捉え、音楽的に歌うことができる。					
授業の概要	イタリア歌曲(ロマン派・近代)を歌唱する。ベルカント唱法を土台にし、作曲家の特徴を理解したうえで歌唱表現へとつなげる。(各人指示された歌に取り組むこと。)【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	トスティ 歌曲より指定された楽曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第2回	上記楽曲②音楽的表現の探求
第3回	上記楽曲③まとめ
第4回	上記楽曲④仕上げと発表
第5回	トスティ・ベッリーニ・ドナウディ 歌曲より指定された楽曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第6回	上記楽曲②音楽的表現の探求
第7回	上記楽曲③まとめ
第8回	上記楽曲④仕上げと発表
第9回	第1回～8回のまとめ
第10回	各人の課題曲を選択・決定
第11回	各人課題曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第12回	各人課題曲②音楽的表現の探求
第13回	各人課題曲③音楽的な仕上げ（伴奏者とペアで音楽の表現研究）
第14回	各人課題曲④伴奏者と共に発表に向け音楽的表現豊かに仕上げる（伴奏者とペアで音楽の表現研究）
第15回	各人課題曲の発表と講評（所感）、レポート提出

事前学修	0.5時間	イタリア語の発音を確認し、音程正しく歌っておくこと。歌詞の内容に適した音楽表現を工夫する。
事後学修	0.5時間	教授された歌唱法、曲想などを確認し繰り返し繰り返し練習する。伴奏者と共に演奏を仕上げることで、作品理解を深める。
フィードバックの方法	授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について、根拠に基づき的確に述べる ことができるかを評価する
上記以外の試験・平常点評価	90%	作曲家ごとの特徴を理解し、ベルカント唱法で歌う 技能最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
トスティ歌曲集 1	畑中良輔・中巻寛子	(株)全音楽譜出版社	9784117135015	なし
参考資料	ドナウディ歌曲集(全音楽譜出版社)、イタリア近代歌曲集(全音楽譜出版社)、ベッリーニ歌曲集(Ricordi社)			

科目名	声楽Ⅳ			担当教員	長川 慶、長川 慶	
単位	1単位	講義区分	演習		ナンバリング	ED2MVC504
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	ロマン派・近代の作曲家によるイタリア歌曲を歌唱する。それぞれの作曲家の特徴を捉え、音楽的に歌うことができる。					
授業の概要	イタリア歌曲(ロマン派・近代)を歌唱する。ベルカント唱法を土台にし、作曲家の特徴を理解したうえで歌唱表現へとつなげる。(各人指示された歌に取り組むこと。)【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	トスティ 歌曲より指定された楽曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第2回	上記楽曲②音楽的表現の探求
第3回	上記楽曲③まとめ
第4回	上記楽曲④仕上げと発表
第5回	トスティ・ベッリーニ・ドナウディ 歌曲より指定された楽曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第6回	上記楽曲②音楽的表現の探求
第7回	上記楽曲③まとめ
第8回	上記楽曲④仕上げと発表
第9回	第1回～8回のまとめ
第10回	各人の課題曲を選択・決定
第11回	各人課題曲①楽曲の中の歌詞（イタリア語）付けと歌唱
第12回	各人課題曲②音楽的表現の探求
第13回	各人課題曲③音楽的な仕上げ（伴奏者とペアで音楽の表現研究）
第14回	各人課題曲④伴奏者と共に発表に向け音楽的表現豊かに仕上げる（伴奏者とペアで音楽の表現研究）
第15回	各人課題曲の発表と講評（所感）、レポート提出

事前学修	0.5時間	イタリア語の発音を確認し、音程正しく歌っておくこと。歌詞の内容に適した音楽表現を工夫する。
事後学修	0.5時間	教授された歌唱法、曲想などを確認し繰り返し繰り返し練習する。伴奏者と共に演奏を仕上げることで、作品理解を深める。
フィードバックの方法	授業時の演奏を各人毎に評価し、コメントする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	10%	選択曲の歌い方について、根拠に基づき的確に述べる ことができるかを評価する
上記以外の試験・平常点評価	90%	作曲家ごとの特徴を理解し、ベルカント唱法で歌う 技能最終発表曲を暗譜歌唱する技能を評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
トスティ歌曲集 1	畑中良輔・中巻寛子	(株)全音楽譜出版社	9784117135015	なし
参考資料	ドナウディ歌曲集(全音楽譜出版社)、イタリア近代歌曲集(全音楽譜出版社)、ベッリーニ歌曲集(Ricordi社)			